

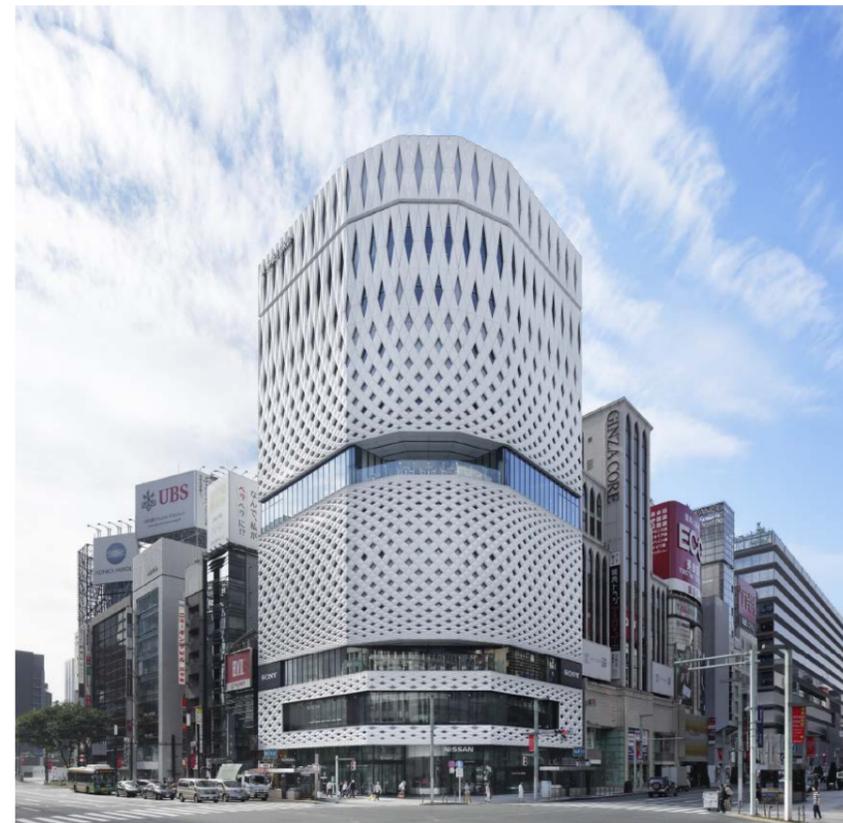
GINZA PLACE (銀座プレイス)

GINZA PLACE

No. 12-048-2017作成
新築
飲食/物販/その他

発注者	サッポロ不動産開発株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計	大成建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
工事監理	株式会社久米設計		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			
施工	大成建設株式会社					

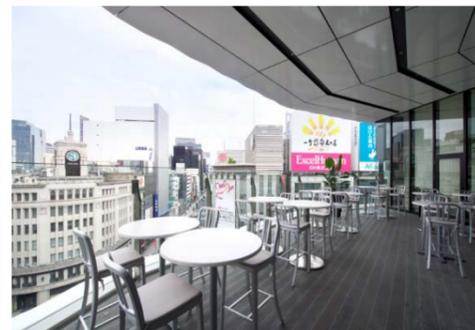
フレキシビリティに配慮した都市型商業施設



銀座四丁目交差点からの見上げ：FRET WORKをイメージした外観



ファサードパネル：陰影による表現

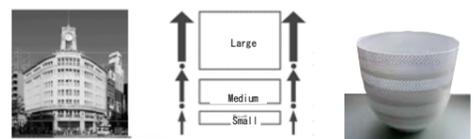


7階テラス：和光の時計台を望む

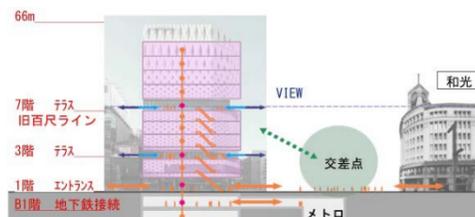
場所性を活かした街との関係性を創出

伝統と先進が重なり合い、常に新しい時代の呼吸を取り込みながら発展してきた銀座において、四丁目交差点に建つ新たなランドマークの計画である。対面する和光との関係性を大切にしながら、白い透かし彫りの器「FRET WORK」のモチーフを先進の技術で表現、これからの銀座の街づくりに貢献する拠点となることを目指した。

周辺の街並みとの調和を図る施設計画を実現する為に、既存のスカイライン（旧百尺ライン）にテラスを設置、外部との結節点となる1.3.7階を開放的な設えとすることで、周囲のにぎわいを取り込みながら、同時に街の魅力を高めるようなシナジー効果を期待した。地下1階においては、既存の地下鉄接続の躯体を活かし、再接続を行った。又、既存躯体の外壁を山留として利用、解体時の周辺建物への配慮と同時に、廃棄物の軽減を図っている。

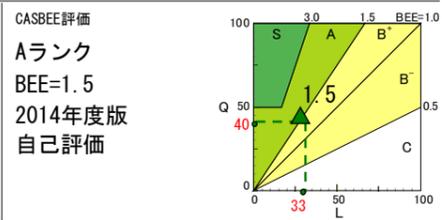


対面する和光の構成を継承 透かし彫りの器



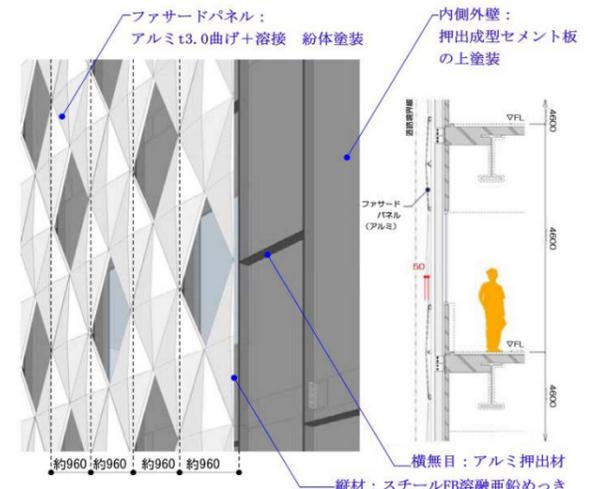
周辺の街並みとの関係を大切にした構成

建物データ	
所在地	東京都中央区
竣工年	2016年
敷地面積	645㎡
延床面積	7,350㎡
構造	S造、SRC造、RC造
階数	地下2階、地上12階



「T-Flex Wallsystem」更新可能なファサードシステム

自由な外装を実現する為、ダブルスキン構造を採用した。内側の外壁には防火及び止水性能を持った押出成型セメント板を設置。各階スラブより支持された縦材フラットバーを構造体とし、横無目はファサードデザインに合わせて自由に配置できるシステムとした。無目部材については、今回新規開発、特殊無目形状を利用した面材取付け下地システム（ノックダウン方式）とファスナーを利用することにより、多様なデザインに対応が可能で、高い層間変位追従性をもつ下地システムである。横無目は特殊断面のアルミ押出材で製作し、溝部をファスナーがスライドする機構で構成される。上部、下部どちらにもファスナーは設置可能で、かつ横方向の位置決めも容易な為、将来のファサードパネルのデザイン変更の際にも対応可能な下地システムである。挙動については、実大実験を行い、すべての試験において、方立、パネル、無目、ファスナーにより構成されるシステムがスムーズに追従し、各部ひずみ計による負荷応力度を測定したが、1/50の層間変位追従試験において、20N/mm²であり、高い安全性を確認した。常に変化を繰り返す銀座において、将来のファサード全面改修を想定、廃棄物の低減、工事期間の短縮に配慮した下地システムである。



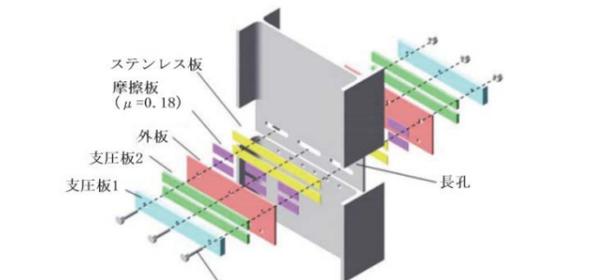
外装構成図：着脱可能なファサードパネル



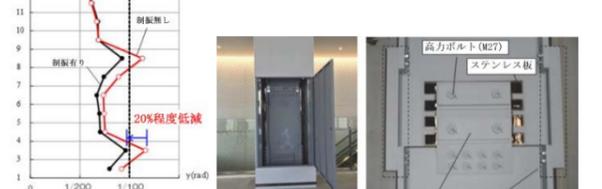
アルミ押出横無目材：自由な位置にファスナー設置可能

「T-Fダンパー」狭小敷地で効果を発揮する制振システム

層間変形を低減する制振間柱を今回新規開発、塔状比の高い本建物において、地震時の変形制御を目的としている。間柱型の制振装置をPS等共用部に配置することにより、プラン変更の際に制約にならない、テナントのフレキシビリティに配慮した構造システムである。X、Y方向各2ヶ所ずつ300～500kNのダンパーを設置。間柱の中央部分に滑り機構を800せいのH形鋼のウェブに取り付けている。ステンレス板と摩擦係数0.18の摩擦板が擦れ合うことで、減衰力を発揮する。摩擦板は、従来型の樹脂系よりも耐摩耗性に優れている「銅コーティング」に改良して採用した。摩擦ダンパーは実大実験を実施。疲労特性にも優れ、長寿命、メンテナンスフリーを想定している。実験にて、レベル2地震動において、最大応答層間変形角が約20%低減できることが確認できた。



高力ボルトにて締付 (軸力管理) T-Fダンパー模式図



接合部



季節毎に変化するライトアップの様子

「夜間ライトアップ」新しい銀座体験の創出

夜間照明はダブルスキンの構成を活かして、直接光でのライトアップではなく、パネルの隙間から光が漏れ出す間接光での計画とし、街に対する光害の配慮を行った。器具は全面LEDを採用し、季節によってデザインを変更、和光の鐘と呼応した動きをプログラムに取り入れ、街を訪れる人々に、新しい銀座体験を提供している。

設計担当者

建築：山本実、芦谷公滋／構造：藤永直樹、本多和人、野々山昌峰／設備：高木健、堀雄二、伊藤肇、山中康弘、丹羽章仁
外観デザインアーキテクト：クライン ダイサム アーキテツク/外装ライトアップデザイナー：シリウスライティングオフィス

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信用性 (T-Fダンパー)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (T-Flex Wallsystem)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (既存のスカイラインの継承、街並みとの調和)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御)
- LR2. 2. 非再生資源の使用量削減 (既存躯体の継続使用)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (騒音、振動、光害抑制)